

令和元年度第2回札幌市男女共同参画審議会 議事録（概要版）

- 1 日 時 令和2年2月17日（月）午後6時から午後7時18分
- 2 場 所 札幌市役所本庁舎 地下1階 3号会議室
- 3 出席者 会長：梶井祥子
副会長：藤村侯仁
委員：大嶋栄子、齋藤寛子、多田絵理子、
光崎聡、柳澤緑
（50音順・敬称略）
事務局：市民文化局長、男女共同参画室長、
男女共同参画課長ほか
- 3 議 題
（1）第4次男女共同参画さっぽろプラン平成30年度実施報告について
- 4 報 告
（1）大都市における男女共同参画に関する市民意識調査について
（2）啓発イベントの予定など
- 5 議事概要
（1）第4次男女共同参画さっぽろプラン平成30年度実施報告について
（資料1－1～1－3）
…事務局より、資料を基に説明。

（委員からの意見・感想等）
○資料1－2の女性活躍推進に関わる札幌市の主な取組として、企業向け出前講座が記載されているが、どのような規模で、また、どのような業界の企業に行かれたのか。
（事務局回答）
→経済観光局の事業であり、規模や業種等の実施実績が手元がないので、確認の上、メール等で報告させていただく。

○中小企業なのか、東京に本社があるような上場企業なかでも随分違ってくると思うし、業種についても偏りのないように、なおかつそういう取組が一番進んでいなさそうなところで実施すると、啓発の効果があると思う。

○ここシェルジュSAPPOROについて、対象者が求職者のほかに就労継続を希望する女性と書いてあるが、例えば非正規雇用で5年になっても雇いどめの恐怖がある方等も対象ということか。就労継続を希望する女性というのは、具体的にどういう女性を対象なのか。
（事務局回答）
→就労継続を希望する女性への相談対応や情報提供については、育休に係る制度や給付金などをご紹介するほか、特に子育てと両立しやすい転職先の

案内などを行っていると聞いている。また、この窓口では職場体験を行っているが、来年度から職場体験メニューにおいて正規雇用へのキャリアアップが可能な体験先の開拓を行う予定と聞いている。

- 資料1－1について、札幌市職員の女性管理職割合は昨年度に比べると上昇しているが、一方で、管理職になるための昇任試験受験率は下がっている。家事・育児等はまだまだ女性の負担が多いなか、自分がやっている本来の仕事に対する勉強もしなくてはならず、プラスアルファで昇任試験の勉強もしなければならない大変さやその思いなど、こういった分析をされているのか参考までにお聞かせ願いたい。

（事務局回答）

→今年度、職員部所管の「札幌市子育て・女性職員応援プラン」改定に向け、昇任試験等に関する項目を含む職員アンケートを実施している。結果は今手元にはないが、長期的な視野に沿った人材育成や、管理監督者の意識醸成が必要だと考えている。

また、最近の若い女性を見ていると、やる気も高く今後ステップアップしていきたいという意欲も高いように感じる。その意欲を削がないよう、家事シェアも含め社会の意識改革を変えていく必要があると感じる。受験率については年によって変動があり、いったん下がっているように見えるが、今年度は平成29年度並みに上昇している。下がり続けていかないよう、意欲喚起をしてまいりたい。

- 資料1－1について、札幌市配偶者暴力相談センターの認知度の数値目標として50%（市民意識調査）と掲げているが、50%でいいのか。暴力に対しては、相談できる場所をかなり周知させなければならないと思うので、もっと高い目標を掲げていただきたい。

（事務局回答）

→市内には、札幌市配偶者暴力相談センター以外の相談機関もある。現実的な部分もあってこういう目標値としている。

- 同数値目標の50%というのは、女性のための数値か。

（事務局回答）

→女性のみではない。男女の数値である。

- 女子トイレには相談窓口啓発のステッカーが貼ってあるが、男子トイレにこそ張るべきだと思う。そういう相談窓口があるのだということを知らない男性が多い。こういう相談窓口を札幌市は設置しているということを知って認識を新たにする男性もいるかもしれない。そうしないと、パーセンテージも伸びないと思う。

- 平成30年度実施の評価をしているが、これは第4次プランの中で政策に反映するのか。評価していることは、どのタイミングで政策に反映させるつもりなのか。

（事務局回答）

→施策については、審議会のご意見を参考にしながら今後進めていく。指標については、5年に1度の調査のときに結果が出るものが多い。

○第4次プラン終了後における目標値を定めているので、平成30年度の実施結果を評価し、目標達成に向けて、現状値がどのような状況かを検討するプロセスが必要だと思うが、指標についても、第4次プラン終了後のものはもちろん、中間の数値も確認する必要があるのではないかと。

(事務局回答)

→成果指標として、5年の1回の市民意識調査や国勢調査などを採用しているものは、代替できる調査が見当たらない。また、成果指標を達成するため何をするかということについては活動指標として、各年度で数値を確認している。

これらの指標を置くこと自体も審議会のご意見をいただきながら定めているものであり、次の計画の策定に向けて、どのような指標が適切かということも含め、検討してまいりたい。

○私自身市民団体のメンバーとして、デートDV防止講座を行っており、実施後のアンケートで「中学生の時の交際で、私は支配されていたんだ」等の感想が寄せられ、印象的である。中学校で交際が始まっている子がすごく多く、また、誰にも見られないLINEのやりとりなどでもそういったことが起こり、それが2人だけの常識になっているようなところもある。ぜひ小学校の高学年ぐらいからデートDV防止講座実施してほしいと思う。

また、実施しないまでも、北高校と手稲高校が作成したデートDV啓発の動画を中学の授業で活用するなど、ぜひ、札幌市教育委員会にお願いしてほしい。

6 報告概要

(1) 大都市における男女共同参画に関する市民意識調査について

(資料2、別添1)

…事務局より、資料の内容と、各都市の結果について、統計的な比較はできないこと等について説明。

(委員からの意見・感想等)

○都市間の比較よりも、各都市の数値がどう変化しているかということが見えることも重要だと思う。すごくばらついてしまう指標と、大体似たような傾向が出る指標があると思うが、変化については確認しているか。

(事務局回答)

→今回は、各自治体で公表されている直近の数字を調べて一覧表にしており、各自治体の過去の数値までは把握していない。

○各都市での質問方法が裏面にまとまっているので、こういうふうに聞くとほしい数字が取れそう等の参考となる。

○「男は仕事、女性は家事、育児という考え方に賛成」項目について、聞き方の違い等があるにせよ、札幌市は42.4%であるのに対し、熊本などは古風な印象だったが、こんなに賛成割合が低いというのがと意外である。

また、「職場での男女平等」項目については、東京でも男女平等になっていると思う人が22.9%で、意外である。職場内の男女平等というのは全国的にどこの都市でも未だに進んでいないのかなという印象を持った。

○聞き方や調査対象の違いもあるが、やはり札幌の数字は低いのではないかと、という危機感を持った上で、スピード感を持って、札幌は頑張ったほうが良い。

これだけではないが、札幌市は政令市の中で真ん中ぐらいに位置することが多く、周りの状況などを見ながら、下にも上にも飛び抜けていることがないような印象がある。男女共同参画の分野に関しては、性的マイノリティ支援策など、全国に先駆けてきた部分も含めて、頑張っているテーマもあるので、札幌市がもっと上位に来て、トップランナーになるぐらいの勢いでやっていただいてもいいと思う。

- (2) 啓発イベントの予定など
…事務局より、説明を行った。